

KFR 第 297 回例会の報告

大阪大学 箕浦宗彦 記

第 297 回例会は、2008 年 3 月 14 日(金)、大阪大学吹田キャンパスの U2 棟 311 教室で行われた。今回は、大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻教授、内藤 林先生による「波浪中における船舶の耐航性について」と題する講演であった。本講演は大阪大学での最終講義および内藤先生が代表を務める実海域推進性能研究会の特別講演も兼ねており、出席者数は 90 名であった。

内藤先生は、1975 年(昭和 50 年)に大阪大学の助手に採用され、1995 年に同大学の教授に就任された。学外では、関西造船協会会長、日本船舶海洋工学会初代会長、各種国際会議の議長などを務められた。本 KFR の元会長でもある。このように重要な役職を歴任され、かつ波浪中耐航性分野の権威であるにもかかわらず、その親しみやすい人柄に惹かれる人は多い。また、助手の頃からの情熱的で厳しい教育スタイルはよく知られるところであり、研究室の内外を問わず、多くの研究者、技術者を育ててこられた。

講演では、今まで出会った好きな数式、自身が手がけた実験装置、それを使って得られた実験結果の図面などが紹介された。時間の関係上、詳細な説明は省かれたが、研究者として一步を踏み出すに至った動機やその時々苦勞された話などを交え、最後まで興味深い内容であった。例えば、主機特性と船速低下の関係を実験と理論で捉えた図面の作成にあたっては、故野本先生との議論を経て、実際の主機(エンジン)特性を有する模型船実験用のモーターが製作され、故中村先生の支援の下に多くの波浪中水槽実験が繰り返されたことが紹介された。内藤先生は、早い時期に船の性能として「実海域推進性能」を提唱され、この言葉は今ではあらゆる場面で使われているが、それはここで得られた経験に基づいているとのことである。その他には、非定常波動場の漸近挙動に関する研究、丸尾教授の波浪中抵抗増加式の奥深さに感銘を受け、今も継続的に研究を進めていること、船首翼による推力発生の研究、多浮体による波エネルギー吸収の研究などについてお話された。円形水槽の全周に吸収造波装置を配置したアメーバ水槽に関する研究は、故別所先生との議論がベースになり、学生から出された斬新なアイデアが盛り込まれていることなども紹介された。

最終講義では、通常は質疑応答の時間は作らないものであるが、内藤先生らしく質疑応答を受け付けた。すると、未だに「実海域推進性能」を正確に推定できないのではないかとこの厳しい質問が出されたが、ここでも内藤先生らしく、技術の発展とともに必ずや「実海域推進性能」を実用的に推定できる日が来ると信ずるとのわかりやすい回答をいただいた。内藤先生は、「粗にして野だが卑でない」生き方を心がけたという。そのような心がけに多くの人が共感し、魅力を感じたことは否めないであろう。本講演は、そのような生き方が垣間見える講演であった。

